

わたしのまちの看護師さん「こまち」紹介

[シリーズ 認定看護師]

- ◎看護研究支援事業報告
- ◎認定看護管理者制度ファーストレベル教育課程
- ◎認定看護管理者制度セカンドレベル教育課程
- ◎看護師等職場体験研修報告
- ◎各地区活動紹介
- ◎訪問看護管理者研修
- ◎訪問看護師養成講習会を終えて
- ◎衛星通信対応研修
- ◎メンタルヘルスケアチームの紹介
- ◎みんなで話そう看護の出前授業
- ◎シリーズ公益社団法人化に向けて
- ◎シリーズおらほの職場自慢
- ◎シリーズ輝いている人
- ◎看護協会へのなんでもメッセージ

秋田県看護協会会報

平成22年度会員数
(最終)

6,778名

保健師 275名

助産師 319名

看護師 5,824名

准看護師 360名



表紙／わたしのまちの看護師さん
[シリーズ認定看護師]
「こまち」紹介
[左]飛澤 貴子さん／JA秋田厚生連仙北組合総合病院 [P2]
[右]小川 伸さん／市立横手病院 [P3]



目次

Contents



- 1 看護研究支援事業報告
- 2 わたしのまちの看護師さん [シリーズ認定看護師]
「こまち」紹介
- 4 認定看護管理者制度
ファーストレベル教育課程
- 6 認定看護管理者制度
セカンドレベル教育課程

- 7 看護師等職場体験研修報告
- 8 各地区活動紹介
(能代山本／北秋田／横手)
- 10 訪問看護管理者研修
- 10 訪問看護師養成講習会を終えて
- 11 衛星通信対応研修
- 12 メンタルヘルスケアチームの紹介
- 13 みんなで話そう看護の出前授業



- 14 シリーズ公益社団法人化に向けて
シリーズおらほの職場自慢
Vol.33 秋田県立衛生看護学院
- 16 シリーズ リレー紹介
～輝いているひと～
県立脳血管研究センター
佐々木美和子さん



- 17 看護協会へのなんでもメッセージ

看護 研究支援 事業

当会は、今年度から看護職の看護研究を活性化するため、看護研究支援事業を重点事項の一つとして企画いたしました。県内の看護学校や看護大学の先生方の指導を受け、年間10名に対して論文作成、看護学会等の発表、学会誌等への掲載までの支援を行うものです。

目的

看護研究に取り組む意欲のある会員の研究計画書作成から論文作成・発表までの過程を支援し、臨床看護及び施設等における看護の質向上を図る事を目的とします。

支援を受ける条件

- 1 看護研究計画書の研修修了者
- 2 看護研究計画書を作成し提供できる者
- 3 秋田県看護学会・全国学会等での学会発表できる者

今年度事業の実施報告

平成22年度は、5施設から7題の応募がありました。

各看護大学・看護専門学校から協力をいただき、看護研究計画書作成から論文作成までの指導を受け、研究者からは今後の日本看護学会・秋田県看護学会および各専門分野の学会で発表したいという意識づけにも繋がって来ており、支援への手応えを俄かに感じております。

引き続き、平成23年度も研究支援の応募を開始します。

応募期間は平成23年3月7日～4月15日です。詳細については、3月初旬に看護管理者あてにご通知いたしますので、どうぞご活用下さい。

「こまち」紹介

あなたのまちで、いきいきと輝く笑顔で働く看護師さんに焦点を当てて、いま、イチ押しの看護師さんを紹介するコーナーです。毎回、看護の専門性をたゆみなく探求し続ける認定看護師さんをご紹介します。



飛澤 貴子さん

こまち File No.09

JA 秋田厚生連 仙北組合総合病院 看護部
認定看護分野／皮膚・排泄ケア



なぜ認定看護師を目指そうとしましたか？

人工肛門の患者様の苦悩を知り、一緒に共有したいと考えました。就職当時から、ET取得を目標に受験しようと考えていました。しかし、自分の時間を作ることができず受験できないまま、ETスクールは閉校してしまいました。WOC分野となり、人工肛門の他に創傷、失禁が加わりましたが、長年の「夢」を実現するために受験しました。

取得するまでに一番辛かったことは？

私が受験したときは、子供2人も大学生だったので経済的に大変でした。外科病棟を離れ数年、経過していたので、ストーマケアは、指導者に確認しながらの実習でした。指導者には、心から感謝しています。

取得して良かったと思うことは？

患者様だけではなく、家族も参加して一緒にケアが共有できる喜びがあります。また、職場では、褥瘡回診やストーマ外来など自分一人ではできない多職種の協力、連携などチーム医療の有り難さを痛感しています。

この資格をとって、次にやりたいことは何ですか。

また、この資格をどう活かしたいですか？

皮膚・排泄ケア分野の共通はスキンケアだと感じています。正しいスキンケアは、皮膚障害の予防、治癒につながります。スキンケアの必要性を多職種の方にも知ってもらいたいと思います。また、WOC分野には、がん患者様が多く、家族とともに苦悩や苦痛を訴える場に遭遇します。がん看護について学び、自分が患者様や家族にできることを見つけたいと思っています。

資格をとろうかと悩んでいるナースに一言。

認定看護師の資格を取りたいと考えても、まだ、認定分野が決まらなと悩んでいる看護師がいると思います。その時は、あらゆる専門性を意識して仕事に取り組んで下さい。そのうち「これだ！」と思える認定分野に出会うことができると思います。

40代以上の看護師の皆様には、「やりたい！」と思う時がタイミングだと思います。私の場合、子育てが一段落した44歳での受験でした。一步踏み出してみませんか。





小川 伸さん

こまち File No.10

市立横手病院
医療安全管理室
認定看護分野／感染管理

なぜ認定看護師を目指そうとしましたか？

病院からのすすめもありましたし、職場の同僚の理解や協力を得られる環境がありました。感染管理の勉強をし始めた頃、現在、県内外で活躍されている秋田県の先輩ICNとお知り合いになる機会もあり、とても影響を受けたと思います。もちろん、自分でも感染管理をさらに学びたいという気持ちも強くなってきていたと思います。

取得するまでに一番辛かったことは？

簡単な研修ではないと覚悟の上で研修に出たつもりですが、想像以上にハードなスケジュールでした。特に実習から感染管理プログラムの提出、修了試験の時期は、睡眠時間も少なくなりますし、自分の解っていない部分もしっかりしてきます。自分のダメな部分だけが見えてきたりする時期ですが、それでも前に進まないといけません。この時期は精神的に辛いなと思いましたが、今思うと自分自身を知るよい機会だったと思っています。あとは皆さんもお書きになりましたが、経済的な負担も辛いなと思います。私の場合、病院からの援助もありましたが、子供もおりましたので、家族には経済的に迷惑をかけたと思います。

取得して良かったと思うことは？

感染管理認定看護師の能力のひとつにサーベイランスをあげることができると思います。自施設の感染管理上の問題点を数字としてとらえ分析することができるようになってきたと思います。これは研修前からの目標でしたので、よかった点のひとつだと思っています。もうひとつは、何といっても同じ志をもつ仲間ができたことです。私は北海道医療大学認定看護師研修センターで学びましたが、この時いっしょに学んだ仲間は一生の財産だと思っています。

この資格をとって、次にやりたいことは何ですか。
また、この資格をどう活かしたいですか？

研修を終えてから継続して行っていることが、感染管理教育やサーベイランスになります。自分もそうなのですが、覚えたことは継続して活用しないとすぐに忘れてしまいます。教育の継続は本当に重要だと感じています。また、サーベイランスを行っていると、改善すべき問題点が少しずつ判ってきます。私一人で感染対策を実践することはできませんので、院内の皆さんの協力を得ながら、改善していけたらと思います。

資格をとろうかと悩んでいるナースに一言。

新しい事を始める時は、不安がつきものですし勇気が必要です。入学試験に合格できるだろうか、新しい環境は大丈夫だろうか、経済的に大丈夫だろうか、研修はうまくクリアできるだろうか、本当に悩みが多いと思います。でも、本当に学びの多い研修であることは間違いないと思います。ぜひ挑戦してみてください。自分の視野、世界が広がると思います。



認定看護管理者制度 ファーストレベル教育課程



教育目的

- 1 看護専門職として必要な管理に関する基本的知識・技術・態度の習得を目指す。
- 2 看護を提供するための組織化並びにその運営の責任の一端を担うために必要な知識・技術・態度の習得を目指す。
- 3 組織的看護サービス提供上の諸問題を客観的に分析する能力の拡大を目指す。

実施内容

- 1 教育期間／平成22年5月18日～8月11日(150時間)
- 2 受講者数／34施設70名
- 3 受講者の職位／看護部長2名、看護師長3名、副看護師長・相当職10名、主任・相当職37名、職位なし18名
- 4 講義についての学び、感想の一部紹介
 - 職場から離れての不安や開放感の中で、自己の学習不足を痛感し、多くの刺激とやる気を受けた日々であり、大きな収穫を得た。
 - アサーティブな生き方が大切であることを学び、心の中でアサーティブをつぶやき、自分が変わろうと努力している。
 - 見るもの聞くものが楽しく、頭のリフレッシュになった。
 - 「答えは現場にある」ということを改めて感じ、初心に振り返ることができた。
 - 自分自身と向き合うことができた一歩ずつ自己の目標に進んだ日々であり、充実していた。
 - 日々の看護を振り返り、看護理論を実践と合わせて分析し、自己の看護観を深めることができた。
 - 研修で書き留めたたくさんの言葉は、一生の宝物となった。
 - “看護師になってよかったな”と改めて実感した。
 - 受講のきっかけに光が射し、目から鱗の状態、気持ちが楽になった。
 - 学ぶという本当の意味を考える機会となり、体系的に学ぶという本当の意味を実感した。
 - “学ぶことは変わる”ということを学び、<変わる>を意識している。
 - 自分の目指す看護管理者を明確化できた。
 - 論理的に<物事の考え方>を学んだ。
 - 研修で出会った仲間たちからたくさんの刺激と情報、励ましと努力する気持ちももらい、共に学び成長できた。

まとめ

平成5年の開講から18年目を迎えました。今年度で1217名が修了しています。

次年度も多くの皆様の受講をお待ちしております。

～今後のご活躍を、心から期待しております～

専任教育担当 工藤 一子 記

ファーストレベル教育課程を受講して学んだこと

市立横手病院
小川 伸

ファーストレベル教育課程研修を受講して学んだこと

自分は感染管理認定看護師として専従で院内の感染管理に携わっている。院内の会議に参加する機会が増え、意見集約を求められる機会も増えてきていた。院内の問題を改善し、それを周知する場合、沢山の人が関わり自身の活動に協力してくれている。コミュニケーションを十分にとり、周りに迷惑をかけず、スムーズに改善を進めることができないかと悩むこともあった。今後、活動を継続していくためには、感染管理の知識だけでは組織横断的に活動することが困難なのではないかと感じ始めた。これがファーストレベル教育課程を受講するきっかけとなった。今回の受講科目の中に「自己理解とアサーティブコミュニケーション」があった。アサーティブネスとは、自分も相手も大切にしたいうえで、自信をもって、はっきりと、自分の気持ちや意見を伝えることができるコミュニケーションの在り方である。問題解決の技術を身につけておくことは重要である。受講のきっかけに光が射し、目から鱗の状態、気持ちが楽になった感じを受けて印象深かった。

受講後、自分におきた変化について

今回の研修ではグループワークが沢山あった。実は、昔からグループワークが好きではない。最終的に意見集約を求められる苦手意識がそうさせているのだと思う。グループマネジメントの単元「集団力学とリーダーシップ」では、意見集約の技術を学ぶことができた。技術が少し身につくとグループワークも楽しくなる。メンバーのいろいろな考え方を聞くことができ参考になった事も多かった。「いろいろな考え方があっていい」「いろいろな意見集約の方法があっていい」そう思える自分に変化した事に気づいた。

ファーストレベル教育課程研修を受講して自分にどのような刺激があったか

知らずに過ごしてきてしまった事、忘れかけてしまっていたことに関し、「改めて知る」刺激を受けた研修だったと感じた。フローレンスナイチンゲールの「看護覚え書」を何十年かぶりに読み返した。看護学生の頃は若すぎて気づくことさえできなかったが、看護師としての経験を積み、読み返してみると、現代に通じる思想を100年も前から述べていることに気づかされた。改めて偉大な思想家であり、実践者であったと感銘を受けた。

ファーストレベル教育課程研修を受講して、今後自分の目指す看護管理者について

研修を受けるたび、自分を高めるため学ぶ姿勢を持ち続け、実践している先輩がいることに気づかされ尊敬の念を抱いた。向上心を持ち、沢山の事を経験・吸収し、後輩に伝えることができれば、ひとつでも自分の役割は果たせるのではないかと考えている。

ファーストレベル教育課程を受講して、今後の自分の課題について

自分に足りない事がさらに明確になり、まだまだ学び続けなければいけないという反省感でいっぱいである。看護理論をしっかり学んでいなかった自分に反省し、保険医療福祉について知らずに過ごしてきた自分に反省し、医療看護制度についても十分に知っていなかった自分に反省した。平成22年度認定看護管理者制度ファーストレベル教育課程ガイダンスの最終ページに「素心知困」という言葉がある。「知識がなくて困った」という意味であると先生から聞いた。まさしく今の自分を表している言葉であり、深く胸に刻み、いろいろな事に興味をもって知識を深めていきたいと考えている。

認定看護管理者制度 セカンドレベル 第4期生 教育課程

専任教育担当 工藤 一子 記



平成22年度セカンドレベル教育課程修了者

教育目的

1. 保健・医療・福祉分野における看護組織の第一線監督者または中間管理者としての基本的役割を理解し、職責を果たすために必要な知識・技術・態度の習得を目指す。
2. 施設の理念ならびに看護部門の理念との整合性を図りながら担当部署の看護目標を設定し、その達成を目指し、看護管理過程が展開できる能力の拡大を目指す。
3. 地域特性を踏まえたヘルスケアサービスの現状を理解し、課題を見出すことができる。

教育期間

平成22年9月1日～11月30日

教育時間

180時間

受講者数

19施設30名

受講者の職位

副看護部長・相当職：4名、看護師長：15名、
副看護師長・相当職：10名、主任・相当職：1名

講義内容からの主な学びと感想の一部紹介

1 医療経済論

- 「貸借対照表」「損益計算書」のデータを財務諸表から読み取り、財務分析し、自病院の利益パターンを知ることができた。
- NHKの経済論を3Dで体感しているようだった。
- 聖路加国際病院のボトムアップ戦略レビュー会議の実施に感動した。

2 看護組織論

- 改めて当院看護部の組織図・職務規程を再確認することができた。
- 組織図の公式構造は理解できたが、非公式構造についての疑問を感じた。
- 倫理はお互いの価値観を確認する、語り合う、ということ学び、倫理を身近に感じた。
- 文献検索の重要性、倫理的配慮、倫理審査について理解できた。
- 「研究者の産物に対してクリティークする」「批評は贈り物」ということを職場で伝えていきたい。
- クロス分析、BSCまで行うことによって、戦略を明確にし、実現に向けた行動計画を示すことを学んだ。

3 人的資源活用論

- 進捗状況とは、「今までどれだけやったか」ではなく、「どれだけ目標に近づいたか」で測るということを学んだ。
- 「キャリアを大切にすることは、自分の人生を大切にすることと同じ」ということを学んだ。
- 看護管理とは、やる気のでる職場作り(人のモチベーションに働きかけることができる)と一人ひとりが「動かす力」になり、成果のでる職場・体制作りであるということ学んだ。

4 情報テクノロジー

- 「看護学」「情報科学」「コンピューターサイエンス」という3つの分野が重なった「看護情報学」という新しい分野があり、アメリカでは認定看護師が存在していることを知った。
- <コンピューターより賢いのは人間である。>ということを念頭において、どのシステムをどこで統合し、利用していくのか考えていきたい。
- 「そもそも情報とは人間にとって何か」、情報が人を左右したり、人の運命さえも変えてしまうという、情報の持つ力、影響力の恐ろしさを感じた。

まとめ

開講から4年目、今年度で117名の修了になります。平成23年度も多くの方の受講をお待ちしております。研修を通して、多くの学びをし、何にも代え難い、宝物を得たと思います。～今後のご活躍を、心から期待しております～

第3期生

認定看護管理者制度 セカンドレベル教育課程修了者

フォローアップ研修 実践報告会

専任教育担当 工藤 一子 記

日 時／平成23年2月7日 9:30～16:00

場 所／看護センター 第一研修室

ねらい／認定看護管理者制度セカンドレベル教育課程での学びを実践で活用している状況を紹介しあい、マネジメント能力の更なる拡大をめざす。

参加者／平成21年度修了者29名、平成20年度修了者1名

受講者の感想(一部抜粋)

- セカンドチームで培ったネットワークを大切に、今後、情報交換したい。
- 研修受講した時と、職場は異なっても、セカンドで学んだことは宝物です。どこにいても、学んだことは必ず活かしたい。
- 報告会に向けてのレポートをまとめるにあたって、日々の看護実践を振り返る機会になった。

日々の看護実践の熱い熱い情報交換が繰り返されました。

～今後のご活躍を、心から期待しております～

看護師等 職場体験 研修報告

看護師職能委員長 三浦ノリ子

看護師職能委員会事業の一つに職場体験研修を毎年行っています。実施期間は10月～11月の間で、研修日は一日のみですが、参加者は充実した研修であった、自施設で業務に活かしていきたい、自己研鑽になったと、その成果と感想を述べています。

今年度は新しく手術看護、Peer Review、癌相談支援を

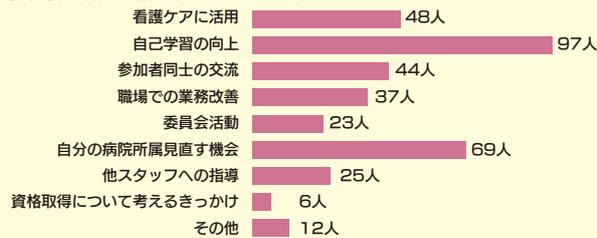
含めた体験領域13項目に拡大、受け入れ施設12施設、参加人数40名が体験しました。

この体験研修は平成15年度から継続して実施している事業で医療・介護保険施設で働く看護師が他施設で研修を行う事で地域における医療・介護の現状の理解と連携の促進を図る目的で行われていました。その後、認定看護師が県内に誕生した事で認定看護師がどのように活動し、専門性を発揮しているのか、その施設ではどのような組織体制になっているか等の体験希望が多くあり、認定看護師の居る施設を中心に実施しています。体験直後の感想は皆さん好評であり、その後どのように活かされているのかを把握する目的で、平成18年～21年の4年間職場体験研修に参加した人を対象にアンケート調査を実施しました。結果は図1～3、表1の通りです。

●アンケート対象/平成18年～21年の研修参加者161名 ●回収率/77%
●調査結果/

- (1)研修に参加して良かった(124:100%)
(2)どのような事が良かったですか。【図1】

【図1】職場体験研修に参加し良かった事



- (3)職場体験研修の内容を発表または伝達する機会がありましたか。【表1】
【あった:86人(70%) なかった:37人(30%)】

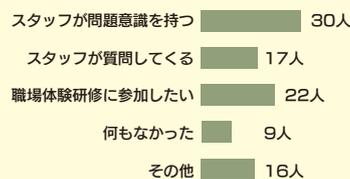
- (4)発表・伝達する機会があったと答えた方はどのような方法をとりましたか。【図2】
その他の伝達方法として、師長会議や、職場カンファレンス、チーム会での報告や、院内文書での報告が挙げられた。

- (5)発表・伝達講習をした結果周囲の反応はどうでしたか【図3】

【図2】職場体験内容の発表・伝達方法(複数回答)



【図3】周囲の反応(複数回答)



【表1】

平成22年度「看護師等職場体験研修」実施一覧

職場体験研修受け入れ先病院	依頼内容	参加者数
1 秋田社会保険病院	感染対策	1名
	Peer Review	3名
2 山本組合総合病院	緩和ケア	2名
3 訪問看護ステーションおだてハチ公	訪問看護	1名
4 外旭川病院	緩和ケア	2名
5 秋田組合総合病院	安全対策	2名
	急性期看護	2名
6 市立秋田総合病院	感染対策	1名
	リンパ浮腫	1名
7 県立リハビリテーション・精神医療センター	精神看護	1名
8 秋田大学医学部附属病院	前方・後方連携	1名
	安全対策	2名
	皮膚排泄ケア	2名
	化学療法	1名
	感染対策	2名
	急性期看護	1名
	緩和ケア	2名
手術看護	2名	
9 訪問看護ステーションあきた	訪問看護	1名
10 仙北組合総合病院	感染対策	1名
	皮膚創傷	2名
11 平鹿総合病院	急性期看護	2名
	皮膚創傷	1名
12 由利組合総合病院	感染対策	2名
	緩和ケア(癌相談支援)	2名
合計		40名

自由記載の中から

- 1)今後も継続希望が100%
2)他施設との交流・連携ができ業務改善に繋がった
3)自分の病院、職場の問題の改善すべきことが見え、考える機会に成った
4)モチベーションが上がり、意欲的に仕事に取り組める

等々が挙げられました。

このような実体験は受け入れ施設の絶大なる協力支援のもとで成り立っている事であり、その受入施設のご協力には心から感謝と御礼を申し上げます。

研修参加者は体験終了後も他施設の看護職間との連携を持ち、交流を継続しているようです。

これは大変喜ばしい事です。看護協会が県内の施設間の看護職の良き橋渡しとなり、この体験が看護の資質向上にも繋がっていくきっかけになれる事を願い、今後も更なる支援を続けたいと思います。

能代・山本 地区支部

山本組合総合病院 山崎 智子

「ふれあい看護体験を実施して」

平成22年7月23日、地区の3つの病院にご協力をいただき、高校1年生を対象に、ふれあい看護体験が行われました。今年度は5つの高校から31名の参加がありました。初めて着る白衣に静かな歓声が聞かれ、皆さん緊張感の中にもわくわくとした表情がうかがわれました。



はじめはとまどいを隠せなかった高校生も、手浴や足浴などのケアをしていくうちに、自然な笑顔を見せて、患者さんと打ち解けることができていました。また、新生児に触れ、抱っこした時が一番生き生きとした表情を見せていました。短時間ではありますが、新生児からお年寄りまで、おそらく普段は関わりが少ない世代、また普段と違う「病院」という環境で接するこの機会は、貴重なものになり得たと思います。

感想文には、看護師になりたいというコメントもあり、頼もしく思いました。一緒に指導した私達看護師も、初々しい彼・彼女らの反応がうれしく、新鮮で身を正すような思いになりました。今後も、若者が看護師の仕事に興味関心をもつきっかけになるよう、継続していきたいと思っています。

横手 地区支部

横手地区支部 佐藤 セツ子

「おしごと」体験!しごと王国に参加して

平成22年7月25日、秋田県地域の魅力発進推進事業の第4回職業体験学習フェア・しごと王国に会員10名で参加しました。

開催目的は小中学生をターゲットに「仕事」をテーマとして楽しく見る、触れる、体験する、そして知るという機会を創出するというもので、秋田ふるさと村で行なわれました。

内容は、看護協会の他、消防署・警察署・JR・プロバスケットチーム・秋田テレビ・秋田放送・NEXC O東日本・横手焼きそば・稲庭うどんなどがそれぞれのコーナーで工夫をこらし、仕事を紹介したり、展示や実演をするものでした。

私たち看護協会横手地区支部は、4コーナーに分かれておこないました。

- ①看護師体験コーナー（参加者202名）
男子は白衣、女子はかわいいエプロンとキャップで看護師に変身、大好評でした。
- ②包帯巻きコーナー
おとうさん、おかあさんの手や足に包帯を巻く体験をしてもらいました。親子のふれあいができ、良かったと思います。
- ③育児相談コーナー
来場者が多すぎて、ゆっくり相談するという環境でなく、「病院に行く、その前に」というパンフレットを配布しました。
- ④町の保健室コーナー（参加者96名）
毎月行っている「町の保健室」の年齢層とは異なり30才～40才と若い方が多く、「血圧を測ったことがない」という方もおり、これからの「まちの保健室」の課題をいただいたように思います。

北秋田 地区支部



北秋田支部支部長
北嶋 洋子

「親睦交流会」

北秋田支部では「活気と結束」のため恒例となった親睦交流会を盛大に行いました。

今年もまた往復内陸線乗車・田沢湖芸術村での昼食会・「わらび座」の観劇というコースでした。

3回目となった平成22年11月14日は前回よりさらに多く45名の参加で少し肌寒かったのですが心は温かく、おおいに盛り上がりました。

この日観劇した「ぶろぼーず」もとても面白く、皆さんの笑顔や、笑い声を聞き日頃の疲れやストレスなど吹っ飛んだ思いでした。

今回は協会員以外の方の参加も多く、沢山の親睦と交流を持つことができました。

北秋田支部は所帯は小さいけれど「活気と結束」は大きいと感じる一日となりました。

来年からは、別の形の親睦交流となる予定ですが、これからも変わらず「活気と結束」でがんばっていきたいと思います。

「看護研究発表会」

平成22年12月3日には看護研究発表会を行いました。これも、毎年恒例ですが今年は60名を越す参加者があり、関心の高さがうかがえました。

日頃の看護過程の中から問題となっている部分に注目し研究することは大切なことです。しかし、業務の一つといっても御苦労も多かったと思います。

内容の濃い研究発表により意欲も高まり充実した時間を過ごすことができました。

今後も看護専門職としてレベルupのため継続していきたいと思います。



このしごと王国は、多くの地域の皆様に看護協会の活動を知らせるともよい機会だったと思います。また、今回の思い出が子供たちにとって、将来職業を選択する時になんらかの影響があり、「看護師」を目指す子がいてくれたらと願っています。

これからもこのような企画があれば参加をし、地域の医療・福祉に貢献していくことが公益法人化をめざす看護協会地区支部の役割であると考えています。



平成
22
年度

訪問看護管理者研修

1. 目的

訪問看護事業所の管理者として訪問看護ケア技術の向上や安全管理、スタッフの人材管理を含む経営技術等について理解を深め、経営強化を図るとともに訪問看護の質の向上に必要な能力を身につける。

2. 実施内容

- 1) 開催日:平成22年10月9日(土)、10月16日(土)、10月30日(土) (延べ3日間)・18時間
- 2) 受講者数:29名(全日程履修者数:24名,科目履修者数:5名)
- 3) 修了者数:20名

研修に関する受講者の感想

- スタッフの身になって働き、よき管理者になれるよう努力したい。
- 小規模でもステーションが増えることを願っている。
- 萩原先生の研修を企画してほしい。
- 得ることが沢山あった。
- ケアマネとの課題もあるので、合同研修を望む。
- この研修を待ち望んでいた。参加したことで道しるべができた。



平成
22
年度

訪問看護師養成講習会を終えて



1. 目的

- 1) 在宅ケアを必要とする人とその家族に対して質の高い看護を提供するために、地域の特性や生活状況をふまえ、最新の知識技術を習得する。
- 2) 在宅ケアチームの中での役割を認識し関係機関との連絡調整ができるような訪問看護従事者としての資質を育成する。

2. 実施内容

- 1) 開催期間・時間数:平成22年5月17日～9月27日(延べ26日間)・153時間
- 2) 受講者数:19名(新規受講者;15名 継続受講者;4名) 修了者数:18名
- 3) まとめ(受講者のアンケート結果から)

今年度は19名の受講者で講習会を開催しました。受講者の背景は様々ですが、お互いに情報交換をしつつ、自己の課題や看護への思いなどを語りあい、研修を修了されました。

訪問看護師をめざす方はもちろんですが、在宅療養を必要とする利用者側の視点に立った退院支援に役立てたい方など、多くの皆様の受講を来年度もお待ちしております。



(1) 講習会に関する期待(複数回答)

内容	人数
訪問看護の知識習得	15名
介護保険・ケアマネジメントの知識習得	9名
実習による他施設の理解	5名
他の職場の人との交流	6名
その他(具体的な技術を学べる)	1名

(2) 目標の達成

内容	人数
達成できた	6名
だいたい達成できた	8名
ほとんど達成できなかった	0名
達成できなかった	0名
どちらともいえない	1名

(3) 今後の看護実践への活用

内容	人数
活かすことができる	14名
活かすことができない	0名
どちらともいえない*	1名

*「どちらともいえない」理由:再就業の予定がない為。

平成22年度

衛星通信対応研修

日本看護協会 清瀬・神戸研修センター主催

	研修会テーマ	開催日	定員	受講者数
1	一般病棟に活かすがん患者への緩和ケア	H22.5月14・15日	70名	28名
2	現場の力を活かす ー魅力的な職場になるためにー	H22.8月6・7日	70名	24名
3	終末期医療のこれからと課題 ー救急医療から緩和ケアまでー	H22.9月10・11日	100名	31名
4	働き続けられる職場づくり	H22.11月6日	70名	15名
5	医療現場を悩ます クレーム・暴力のマネジメント	H22.12月10・11日	70名	44名
6	災害医療と看護	H23.1月14・15日	70名	19名
7	生活をつなぐ退院支援 ースムーズな地域連携のためにー	H23.2月4・5日	70名	44名

S-QUE研究会 日本臨床看護マネジメント学会主催

	研修会テーマ	開催日	定員	受講者数
1	看護必要度評価者 院内指導者研修	H22.6月6日	60名	82名
2	看護必要度評価者 院内指導者研修	H22.12月5日	60名	60名



今年度は、9つのテーマを受信し、研修会を開催いたしました。県内はもとより近隣県の看護職を含め、347名の皆様にご参加いただきました。皆様に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

次年度は3つのテーマを受信する予定です。開催テーマ・日程・申し込み方法等は、**平成23年度教育計画冊子**に掲載いたしますので、ぜひご覧ください。

全国の看護職の皆さんと同時に学びの時間を共有してみませんか…？ お申込みをお待ちしております♡



メンタルヘルスケアチームの紹介

働く人たちをサポートするホットサロン

<p>中通総合病院</p> <p>■病床数 539床 ■入院基本料 7対1</p>	<p>■看護職員数 (23年1月1日現在) 正 規;看398人、准 5人 非正規;看 17人、准 4人</p>	<p>■離職率 9%(2005年度) 8.5%(2009年度) 5.7%(2010年度)</p>
--	---	--

一般の企業では新入社員の多くが、入社後3年以内に会社を辞めてしまい、人材不足や採用・教育経費の無駄が生じ、大きな問題となっております。また病院・医療関係においても、同様の問題が起きております。新卒の看護師20%弱の看護師が1年以内に退職するという状況です。新人看護師の退職理由の多くが、病院・医療機関に勤める前に描いていた“理想”と、実際の現場における“現実”のギャップに耐えられず、退職・離職をしてしまう状況が続いています。職場環境に恵まれず、せつ

なく就職したものの、短期間で辞めようとするようになってしまう看護師は、意外にも多いと思います。

当院では、2005年4月メンタルヘルスケアチームが発足しています。メンタルヘルスケアチームは、職員の心の健康問題を早期から援助し解決へ向かう手助けを目的とした活動を進めています。院内の衛生委員会がおこなっている労働安全衛生活動の一つに位置づけられています。またチーム発足から6年これまで相談、ストレス解決法や啓蒙活動だよりの発信活動を実施しています。

相談窓口と内容

メンバー：事務・看護師・薬剤師・心理療法士計4名で構成されています。

相談窓口：心理療法室でのメール予約、電話予約

受付対象者：すべての職員

アドバイザー：心療内科医、産業医、心理療法士

仕事のストレス、人間関係の悩み、心の不調など感じたら窓口を中心に気軽に声をかけられ、職場に気兼ねしなくてもいいようにメールでも受け付けができるようにしています。また相談者のプライバシーや相談内容は個人情報として保持する事を職員に対する根本的責任と考え、第三者に公開するような事はありません。

次の3点がメンタルヘルスケアチームの機能となっております。

- ①職員が勤務できないという状況にまで至らないよう、自分自身の精神衛生のセルフチェックを推進します。
- ②上司が部下の異変になるべく早く気づいて声をかけるよう、うつ状態や不安状態を呈するなど前兆を見逃さない教育・啓蒙活動を行います。
- ③相談機関についての情報の提供や、相談者の状況と希望に応じて上司との連携・連絡調整に入ります。

看護師の売り手市場である現代ですから、それは恵まれた環境が提供されているものと思いきや、実際はハードな仕事内容に、休みも満足に取得できず、人間関係でストレスを溜めてしまったり、これでは不満が溜まる一方なのも理解できません。こうした事から、退職してしまおう、辞めてしまおうと考える看護師が多くなるのですが、少し冷静に考えてみると、非常にもったいないと思っております。高い志を持って看護師の道を選択し、資格も取得して就職したのに、どれだけ活躍できたでしょう？まだまだ活躍できるチャンスが沢山残されて

いたのではありませんか？と問いながら、とても残念に思います。

職員一人ひとりが、仕事と生活の中で起こる葛藤や悩みを受けながらも、個々のキャリアや働き方を支援できるように、体制を充実させていきたいと考えております。これまでに年間平均して15件前後の相談があります。予想以上に気軽に相談に来て下さる職員が多く、根づいていって、「心のケアの手助け」ができ、多くの職員が生き活きと仕事に取り組める職場環境づくりをさらに推進していきたいと思っております。

最初の頃は「仕事＝辛い、大変」と言う思いで頭の中がいっぱいでした。相談の機会を重ねる毎に「最初は出来なかったことが出来るようになった。」「患者さんが元気になっていく姿、笑顔」を見ることで少しずつ心の中で充実感、満足感を感じるようになりました。心の整理ができると目の前の出来事が少しずつ見えるようになると実感しました。今はその頃の自分が懐かしいと感じられるようになりました。

(本人の同意を得た上で、新人相談者より)

みんなで
話そう

看護の出前授業

日本看護協会は「看護の日・看護週間」事業の一環として、平成16年度から「看護の出前授業」を全国的に展開しています。この出前授業は看護への理解と関心を促すため、中学生・高校生等を対象に、看護職が看護の仕事の内容やその魅力について伝えるものです。

また、簡単な看護技術や模擬体験(心音を聴く、赤ちゃん人形の抱っこ、妊婦ジャケットの着用、高齢者体験)なども行いながら看護への理解を深める機会としています。

秋田県看護協会では、平成21年度からこの事業に取り組み2年目になります。初めて取り組んだ昨年は4校の参加でしたが、今年は15校での実施となりました。(小学校1、小・中学校1、中学校7、高等学校6)延べ22人の講師が、1040人余りの生徒に授業を行っています。「命の大切さ・心と体の話・看護の仕事」を主な内容とし、看護に関する簡単な実技も取り入れて実施するのでインパクトがあり大変好評です。

講師は、希望のあった学校所在地地区支部の看護職に担当していただき忙しい中、様々な工夫を行い積極的に取り組んでいただいております。



生徒の感想

- 生命のふしぎがよくわかりました。わたしが自分の赤ちゃんを産むまで、今日学んだことをずっと覚えていたいと思いました。(小学生)
- 自分の進路を真剣に考えるきっかけとなり、将来につながる貴重な授業でした。(中学生)
- 大切な人が悩んでいたら話を聞いてあげるだけで癒されるということを学びました。秋田県は自殺率が高いので、一つしかない命を大切にしていきたいです。(中学生)
- 命の大切さに触れた内容で、母親の気持ちや自分の存在について考えることができました。(高校生)
- 神秘的な受精ののち、一つの命の誕生がどれだけ大切かということと、親はもちろん沢山の人が自分の誕生を待ち望み、歓迎されて生まれてきたことを改めて考えさせられました。(高校生)

学校からの感想

- 赤ちゃん人形、お年寄り体験グッズ等を準備して頂き体験的に学ぶことができ、普段の授業では見られない生き生きとした生徒の様子が印象的でした。
- 病院という正面から人の命と関わる仕事をされている看護師さんからの話を聞くことで、命の大切さや人との関わり方について真剣に考える機会になりました。
- 来年以降も授業を申し込みたいと考えています。



講師からの感想

- 高齢者体験で「祖母の苦勞が分かりどんな手助けをしたらよいかを知ることができた」という優しい言葉が聞かれ嬉しく思います。
- 命の重要性尊さ、また人の話を聞くことの重要さとそれぞれが孤立しない・させないことについて改めて確認できたようでした。
- 胎盤を持参し実物を見てもらったことで、児童からは命の重さを感じた、大切にしたいという感想が聞かれました。是非多くの学校で機会があればまたこのような授業を行いたいと思います。

このように感動的な声をたくさんいただいています。自殺予防に取り組んでいる秋田県として、命の大切さを伝える絶好の機会ともなっており、生徒たちからもとても素直な感動が伝わってきます。今後、ますます力を注ぐ必要のある事業と考えています。

前号では、平成23年度予算から、秋田県看護協会会計の中に、地区支部会計が組み込まれることになり、会費、地区支部活動、地区支部総会について触れましたが、今回は具体的な運営について説明します。

シリーズ

公益社団法人 化に向けて

Vol.5

Q1 地区支部の事業計画と予算については、どのようにして決定となるのですか。

A

23年度の事業計画と予算について説明しますと、事業計画については、第5回理事会（9月16日）において承認されました。この事業計画を踏まえて、予算案の作成に着手し、9月下旬と12月上旬の2回の個別相談会を経て、1月中旬に事業計画（案）と、予算（案）を固めました。

この後、本会の事業計画案及び予算案に組み入れて、3月の理事会で承認を得て、6月の通常総会に提案します。

地区支部の予算案については、これまでの繰越金という財源がなくなりますので、22年度の地区支部会費相当額と本会の地区支部交付金を合わせた収入で、23年度の支出を考えなければならないということで、大変窮屈な予算になりました。また、本会の会計事務のルールに沿わなければならないこともあり、予算案の作成にあたっては、地区支部長並びに会計担当者には大変御難儀をおかけしました。この場をお借りし、お礼を申し上げます。

また、事業計画案につきましては、予算の関係で、事業計画の修正や縮小の生じた地区支部もありました。会員の皆様のご理解をお願いいたします。

Q2 6月まで事業計画と予算が成立しないということであれば、4月から6月までに開催する地区支部総会や研修会などは開催できるのですか。

A

本会でも、看護の日フェア事業や理事会等は、毎年開催していることもあり、理事会の承認を得て、総会前でも、事業を実施しています。

地区支部においても、新規事業や重点的な事業でなければ、総会前の実施であっても差し支えないと考えています。

Q3 4月開催の事業の資金は、地区支部にどのように配分されるのですか。

A

4月開催の事業の資金につきましては、本会で支払う部分と地区支部で支払う部分に区分し、地区支部で支払う部分については、4月上旬に地区支部長の口座に振り込みます。

本会で支払う部分は、事業終了後地区支部から事業経費支払依頼や事業実施報告を提出してもらい、口座振替で支払います。

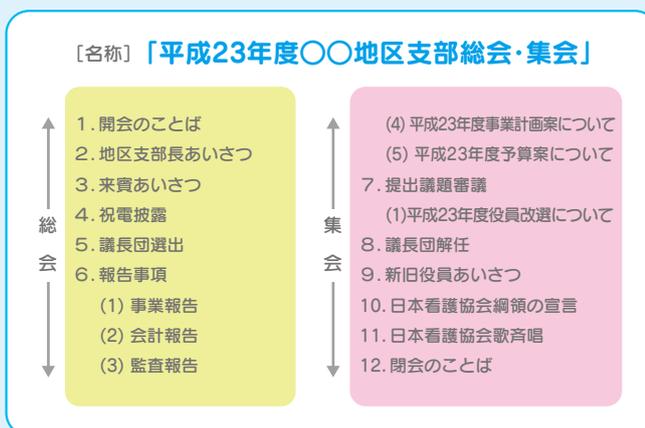
地区支部の事業が4月であってもその開催や実施に支障のないようにします。

Q4 地区支部の事業計画や予算が総会で決まることとなりますが、23年度地区支部総会はどのようになるのですか。

A

23年度地区支部総会は、22年度の事業等については、地区支部総会で、23年度以降のことについては、地区支部集会で、審議・承認することになります。

具体的には、右のとおり考えています。





看護専門職者としての
実践力の育成

本学院は3年前に秋田市から横手市に新築移転し、新たな出発をしたところですが、歴史は古く、昭和33年の開設から今年で53年目を迎えました。全国にも珍しい保健科・助産科・看護科を併設しており、多くの卒業生は、県内は元より全国で活躍しております。卒業生数は今年度の卒業者を含め、保健師・助産師・看護師合わせて5,355名にも及び、県内で、本学院の卒業生のない病院はないと言っても過言ではないでしょう。また、移転を期に県内看護職員の資質向上を図るため、研修部門を設け実績を上げているところです。

本校の教育方針は、歴史を経た今日も変わりなく、看護専門職者としての実践力の育成を教育の中核に据え、実践力を支える看護観を大切に育てることで。

保健科は、県南地区の市町村で年間30日間、同一地区で健康課題の把握から課題解決に向けた事業展開を家庭訪問や健康相談などの方法を駆使して、継続した実習を行っており、このような実習は全国でも注目されています。



助産科は、秋田赤十字病院で9例は分娩開始から退院まで、1例は妊娠期から産後1か月まで一貫して受持、お母さんと赤ちゃん、その家族のケアを昼夜を問わない実習で実践力を付けています。

看護科は、平鹿総合病院で主に実習を行っており、看護師としての専門的知識・技術は元より、看護師としてのあり方を実習の場を通して学んでいます。

多くの実習指導者、講師の先生たちの温かみで、そして看護職への期待や願いが込められた指導や講義を受ける中で、学生は看護職者としての自分を描き成長していると感じています。学生が本院で学んだことを誇りに思えるように、教職員一同、力を合わせているところです。

新シリーズ
リレー紹介

輝いている人

No.
3



平成22年度ファーストレベル教育課程を修了し、
「学ぶ組織づくり」をめざして努力しております。

No.3で登場していただく方は

県立脳血管研究センター

佐々木美和子さん

今年の3月で秋田大学大学院医学系研究科を修了し2年になります。

「どうして行く気になったの?」とよく聞かれましたが、その都度曖昧な返事をしてきてしまいました。この機会に自分を見つめ返すと、一言でいえば「変化が欲しかった」からかなと思います。

脳卒中看護に長く携わり、入院してくる患者さんの経過が見えてしまうようになり、自分の心の中にマンネリ感があったのは事実です。何事にも謙虚に、そして新しいことを吸収し変化させていく柔軟性が必要とどこかで感じていたのだと思います。

大学院では、秋田県で抱えている自殺の問題について寸劇を考えたり、看護師の夜勤や抗がん剤被爆による健康問題、不妊治療をはじめとした様々な倫理的問題について考え、自分の意見を述べ合うなど刺激的な学びがありました。また、修士論文を書き上げながら、

自分が興味を持っている事は、「看護職を続けている看護師」であることを認識することができました。

大学院を修了した今、脳卒中急性期看護を続けながら、看護研究の支援を行っています。とは言っても、充実した看護基礎教育を受けてきた若い看護師とようやく対等に向き合えるようになったという現状です。しかしながら、研究論文を書き上げる苦労はよく知っているつもりですので、先を急ぎがちな若き看護師をどしりと構えて見守り、文献検索を十分に行う必要性だけは厳しく伝えていきます。また、脳卒中看護に関して院内外で講義をする機会があり、看護師の継続教育を支援していく事も自分の役割だと感じています。

仕事と家庭、そして学業を両立することはとても大変なことです。私自身犠牲を払った部分も大きいのですが、「学びたい」と思った時を逃さず、みなさんもチャレンジしてみてください。



このコーナーは、
今回で終了いたします。

看護協会への

なんでもメッセージ

看護協会へのご意見・ご要望、看護あきたで取り上げてほしい話題・お知らせ等々、
なんでも結構です。ご自由に記入して、FAXで送信してください。

Large empty area with horizontal dashed lines for writing a message.

お名前

病院・医院名

TEL

FAX

部署・部門名

社団法人 秋田県看護協会

FAX.018-835-9522

INFORMATION

事務局からのお知らせ

平成23年度入会申込受付中

平成23年度入会申込を
平成23年9月末日まで受付しております。
ご入会をお待ちしております。

秋田県看護協会
平成23年度会員数
(H23.2.25現在)

6,319名
保健師 261名
助産師 296名
看護師 5,444名
准看護師 318名

お知らせ

平成23年度会費については、地区支部会費の区分がなくなり
県協会費に一本化されることとなります。

会費 内訳	日本看護協会費	5,000円
	秋田県看護協会費	6,000円
	合計	11,000円

問い合わせは

秋田県看護協会 会員管理担当 ☎018-834-0172

今回掲載された文章や写真、個人名・団体名については個人情報保護法の下、他の目的には一切使用いたしません。

編集後記

いつまで続くかと思われた厳しい冬もようやく緩み始めました。例年になく大雪に苦労された方も多かったことと思います。この一年間、広報出版委員全員で皆さんに親しんで頂ける「看護あきた」にするために新たなコーナーを設けたりして頑張ってきました。新年度も看護協会の情報や、皆さんの活動の様子をお伝えしていきますので、是非、ご意見・ご要望をお寄せ下さい。(広報委員)

看護あきた Vol.103 平成22年度 4号

Nursing Akita



発行日/平成23年3月10日
発行責任者/(社)秋田県看護協会 会長
発行所/(社)秋田県看護協会 秋田市千秋久保田町6-6 Tel 018-834-0172
印刷所/秋田中央印刷(株) 秋田市新屋豊町6-43 Tel 018-823-7577